

II 和歌山市の景観の現況

この章では、計画策定の前提として、和歌山市がどのような景観を有しているのか、景観のなり立ちと特性の観点から明らかにしています。

1. 和歌山市の景観のなり立ち

和歌山市の景観が一体どのような歩みをたどって現在に至っているのか、そのなり立ちを、地形・自然、歴史、市街地形成の3つの視点から読み解きました。

(1) 地形・自然が規定する骨格となる景観

① 北部と南東部に位置する丘陵に囲まれ、その間を西に流れる水量豊かな紀の川の下流域に、扇状の沖積地が形成された

和歌山市は、北部及び南東部の一部に丘陵が位置しており、その間を西に流れる紀の川に沿って、扇状の沖積地である和歌山平野（低地）が広がっています。

平野部は、かつて紀の川の氾濫原でもあり、過去には数多くの水害被害を被ってきましたが、その一方で温暖な気候と豊富な水量を有する紀の川のおかげで、水田や果樹園地帯が形成され、東部には農村集落が点在しており、牧歌的な田園風景も広がっています。

② 紀伊水道に面する長い海岸線を有し、市全体が海に向かって開かれた景観構造となった

市の西部は紀伊水道に面しており、紀の川の河口部を含めて長い海岸線を有しています。かつては紀の川と紀伊水道を行き交う水運や漁業が発達しました。

和歌の浦、雑賀崎や加太、友ヶ島など海岸部の地形美が見せる島しょ景観は、和歌山市の大きな特徴であり、一部が瀬戸内海国立公園にも指定されています。

海岸線の一部は近代化の過程で埋め立てられたものの、依然として市街地の中心部と海との距離も近く、市全体が海に向かって開かれた景観構造となっており、市民の海に対する意識も強くなっています。



和泉山脈と紀の川



名草山から紀伊水道方面を望む

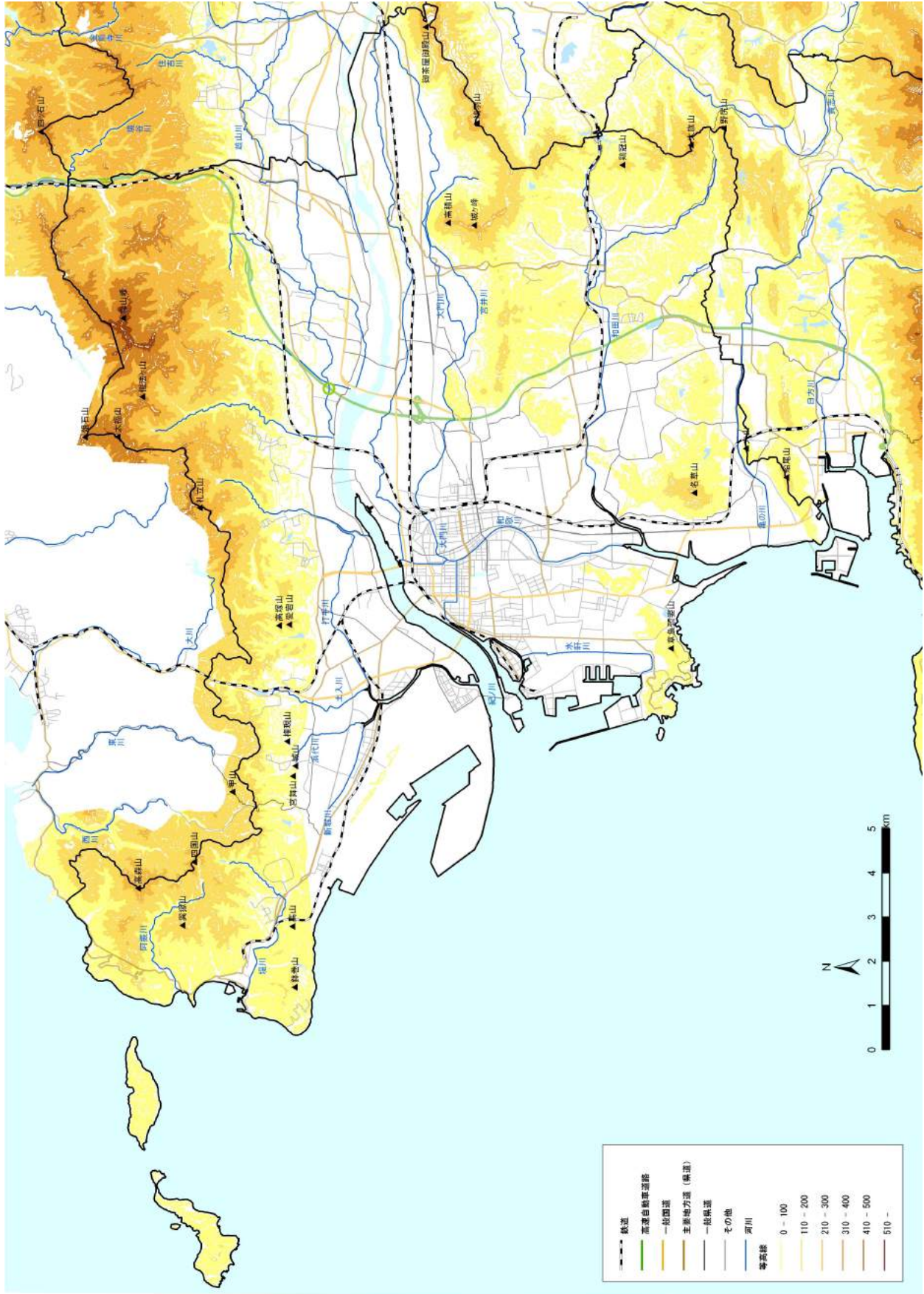


図 2 和歌山市の地形

(2) 歴史が規定する骨格となる景観

①市内各地で古墳時代、万葉の時代からの文化の薫る景観の面影が今も残っている

和歌山市は、古くから紀の川の肥沃な土壌により稲作などの農業が発展してきました。平野部の一帯に残る古墳群には、当時の紀北地域の経済力の大きさと巨大な権力を持った豪族たちの栄華をうかがい知ることができ、現在においても紀伊風土記の丘など古墳時代の痕跡を今に伝える場所が点在しています。

また、和歌の浦、紀三井寺、加太など、万葉の時代からの景勝地が多く存在し、歌人によってその情景が歌に詠まれてきました。これは万葉時代に紀伊国行幸が行われたためです。例えば、片男波は山部赤人が万葉集で「若の浦に 潮満ち来れば 潟を無み 葦辺をさして 鶴鳴き渡る」と詠み、その「潟を無み」にちなんでいると言われています。

現在では、市街化などが進んだものの、まだまだそうした景観の面影が各所に見られます。



図 3 妹背山から望む名草山～観海閣
観海閣から名草山中腹の紀三井寺を望んだ
約 200 年前の風景



現在の観海閣からの風景

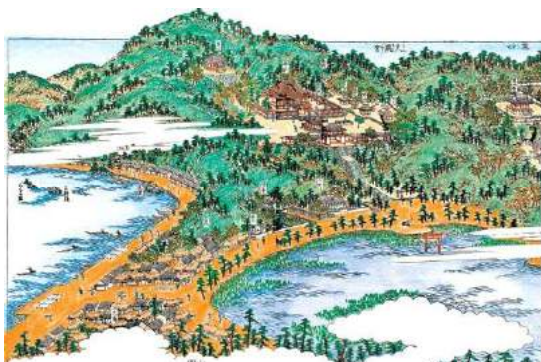


図 4 湿地化が進む入江と水鳥居～天満宮
和歌浦天満宮付近の約 200 年前の風景



現在の和歌浦天満宮

加えて、地域での人々の暮らし、生業が風土により形成された「文化的景観」が市内の各所に存在しており、今に受け継がれています。

雑賀崎、田ノ浦は、入り組んだリアス式海岸が特徴的な半島部に位置する漁村で、半島の地形に身を寄せ合うように建物が建ち並ぶ昔ながらの漁村の景観が、独特の景勝美を醸し出しています。岬の先端には雑賀崎灯台、双子島を眼前に見る番所庭園など、青い海と空、奇岩の地形が生み出す自然の造形を楽しむことのできる場所が点在しています。また、大漁旗で旧正月を祝う祭りも現在まで受け継がれています。

また、布引は砂地農業が永く営まれた場所で、近世初期の短冊形の農地が今でも残っており、古くからのイメージを良く保っている場所です。



図 5 釣り人で賑わう荒磯～雑賀崎・鷹の巣～
雑賀崎付近の約 200 年前の風景



雑賀崎の漁村景観

②徳川御三家の城下町を基盤とした都市の構造が、現在の市街地景観の骨格を形づくっている

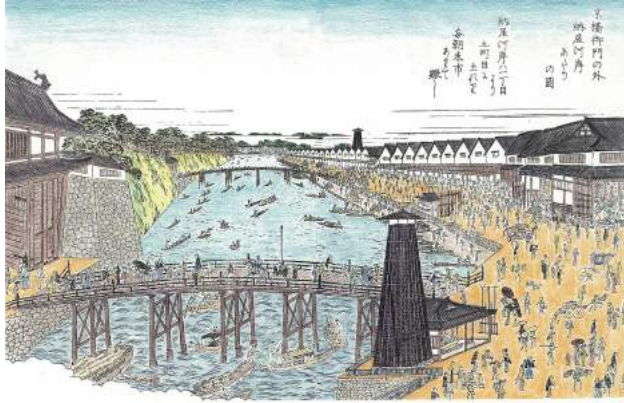
関ヶ原の役の直後、1600年に浅野幸長が入国したことによって、本格的な城下町の建設が行われることとなります。その後、1619年に徳川頼宣が55万5千石を拝領してから、増加した家臣や城下人口に応じて町の範囲を拡大し、約250年間、和歌山市は徳川御三家の城下町として大きく発展しました。

標高48.9mの虎伏山（岡山）に城郭を構え、内外堀の開掘、町割の整備等が進められ、城郭を取り囲むように武家屋敷や町人地が配置されました。藩政期、現在の雄湊は大型廻船の船着場としてにぎわい、市堀川の京橋付近は城下で最も活況を呈した場所であったと伝えられます。



図6 安政二年の和歌山城下町絵図

※図中ア～エの記号は次ページの絵と対応



画：松尾広徳「京橋御門の外」

図 7
ア) 行き交う船 にぎわう河岸
～京橋御門の外～

和歌山市の中心部を流れる市堀川（内川）沿いの約 160 年前の風景



画：松尾広徳「大手御門山の図」

図 8
イ) 広々とした北堀と大手路
～一ノ橋・大手御門付近～

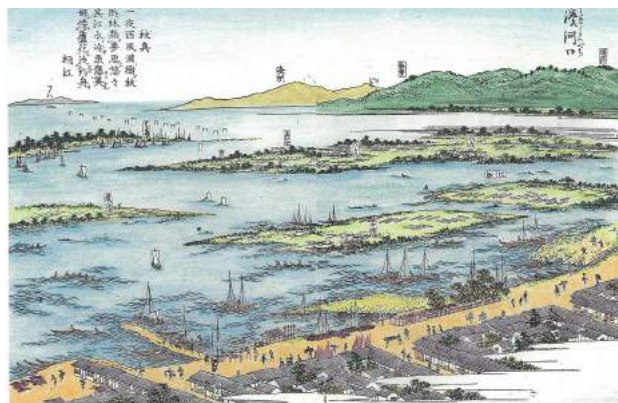
和歌山公園前から天守閣を望んだ約 160 年前の風景



画：西村中興「寄合橋」

図 9
ウ) 整然とした城下の町並み
～寄合橋～

今から約 200 年前の市堀川（内川）沿いの城下町の風景を俯瞰して描いている



画：西村中興「湊河口」

図 10
エ) 紀伊水道を望む紀の川の河港
～湊河口～

久保丁付近から西の紀伊水道を眺めた約 200 年前の風景

こうした城下町時代を基盤とした都市の構造が、現在の市街地景観の骨格を形づくっています。

特に和歌山城周辺では、武家屋敷の大型敷地の町割が比較的継承されており、公共施設等を中心とした現在のシビックゾーン²の形成につながっています。

残念ながら、お堀は北外堀（市堀川）を除いて、昭和15年頃までに全てが埋め立てられてしまいました。しかし、現在でも町名など往時の面影が残っている場所もあり、南北34間（61m）、東西65間（117m）の整然とした町割が残る場所もみうけられます。

表 1 同職集住の職人町

安政2年和歌山城下町絵図の町名	おおな大名	現在の町名	現在の地区
網屋町	湊	網屋町	雄湊
板屋町	内町	板屋町	城北
南・北桶屋町	内町	南・北桶屋町	本町
東・西鍛冶屋町	内町	東・西鍛冶屋町	城北
東・西瓦町	新町	田中町 3～5 丁目	新南
北新桶屋町	北新町	北新桶屋町	本町
北新金屋町	北新町	北新金屋丁	本町
北新元金屋町	北新町	北新元金屋丁	本町
分銅丁	新町	北ノ新地分銅丁	大新
木挽町	新町	木挽丁	大新
紺屋町 (1～3 丁目)	湊	湊紺屋町 (1～3 丁目)	雄湊
南・北・中細工町	広瀬	南・北細工町	広瀬
材木丁	湊	材木丁	雄湊
新大工町	新町	新大工町	大新
匠町	内町	匠町	本町
畳屋町	内町	畳屋町	本町
鍋屋町	内町	鍋屋町	本町
西紺屋町 (1～2 丁目)	広瀬	西紺屋町 (1～2 丁目)	広瀬
西・南・北大工町	内町	西・南・北大工町	本町
東紺屋町	広瀬	東紺屋町	広瀬
吹屋町	新町	吹屋町 (1～5 丁目)	新南
舟大工町	内町	舟大工町	城北
桶屋町	吹上	湊桶屋町	吹上
南材木丁 (1～3 丁目)	新町	南材木丁 (1～3 丁目)	大新

表 2 同職集住の商人町

安政2年和歌山城下町絵図の町名	おおな大名	現在の町名	現在の地区
南・北牛町	湊	南・北牛町	雄湊
北新博労町	北新町	北新博労町	本町
毛皮屋町	新町	毛革屋丁	大新
米屋町	内町	米屋町	本町
新魚町	内町	新魚町	本町
新八百屋町	新町	新八百屋丁	大新
中之店 (南・北・中ノ丁)	内町	中ノ店 (南・北・中ノ丁)	城北
西之店	内町	西ノ店	城北
東・西旅籠町	内町	東・西旅籠町	本町
広瀬八百屋町	広瀬	広瀬通丁 3 丁目	広瀬
元博労町	内町	元博労町	城北
萬町	内町	万町	城北

※職人町に由来する町名が、城下町絵図では31町あり、現在も28町にその名が残っています。

※商人町に由来する町名が、城下町絵図では16町あり、現在も15町にその名が残っています。

² シビックゾーン：歴史的にも行政・文化の中心であり、官庁などの行政施設や市民が利用する公共施設が集積する地区。

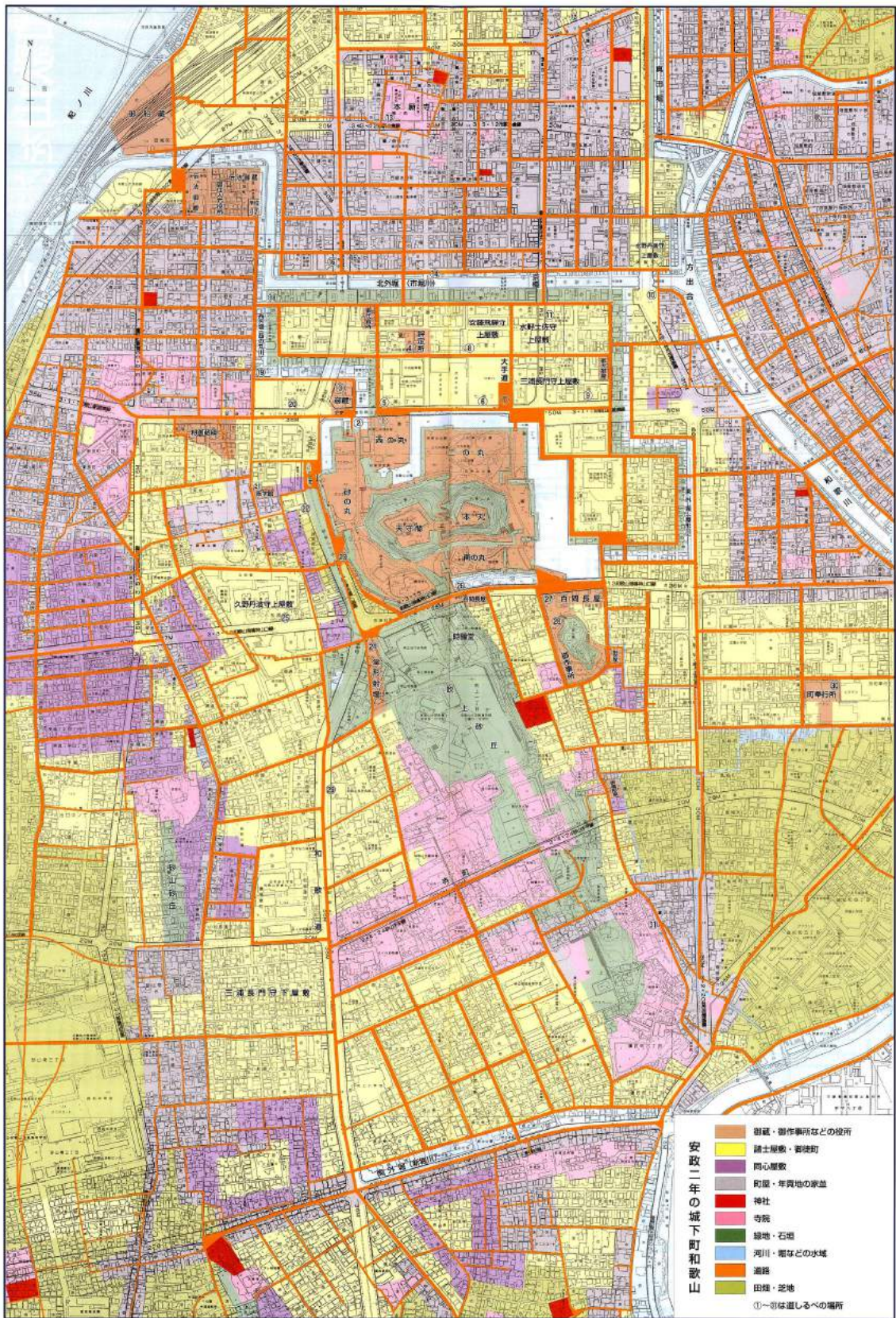


図 11 安政 2 年の城下町絵図を現在の地形図に重ねたもの

③城下町を中心として放射状に街道がネットワークし、その沿道に農村集落が点在する

和歌山市では、大和から紀伊に入り、紀の川北岸を並行して通り、加太まで通ずる古代の官道＝南海道（なんかいどう）のほか、城下町を起点とする往還（紀の川沿いに伊勢へと向かう伊勢街道、大阪方面へ向かう上方街道、加太へ向かう淡嶋街道など）が整備され、参勤交代や民衆の往来が盛んであったとされています。

これらの街道の沿道には、周辺を農地に囲まれた農村集落が点在しており、明治期の地図でその位置が確認できます。現在でもその集落が残っており、古い民家や寺社等の分布が見られます。



禰宜（旧中筋家住宅）



里



和田



谷



永山



上三毛

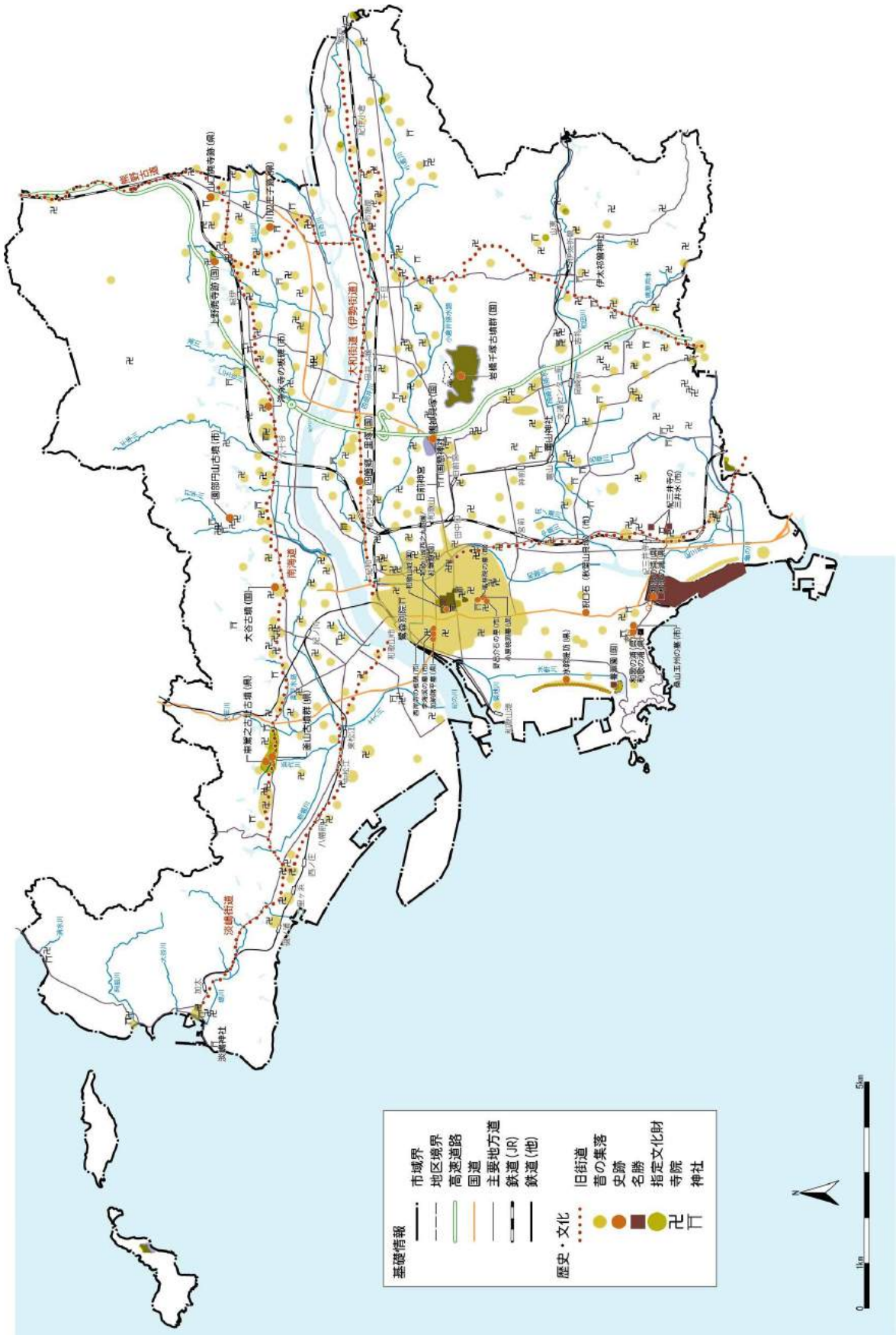


図 12 和歌山市の歴史資源等の分布

(3) 市街地形成による景観の変容

① 明治以後に進んだ工業の勃興が市の発展を支え、都市景観が大きく変貌するきっかけとなった

和歌山市は、廃藩置県後、武家屋敷が荒廃し、市街地のゆるやかな拡大とともに歴史的なまちなみの喪失がはじまりました。

その後、綿工業を中心とした工業が盛んとなり、和歌川流域に紡績工場などが立地しました。また、戦時中は軍需を背景に、紀の川河口へ鉄鋼業、化学工業などの工場が建設され、県北部の臨海地域工業地帯が形成されるとともに、鉄道整備、道路整備など一定の社会基盤整備が進むこととなりました。

② 戦災により市街地の大半が焦土化、復興の過程で社会基盤の整備、臨海部の埋立て等といった市街地の拡大が一気に加速したが、その一方で市街地の景観が大きく変容した

和歌山市は、戦時の大空襲により市街地の7割が焦土化し、和歌山城の天守閣も焼失しました。その後、和歌山城天守閣の再建や戦災復興土地区画整理事業が進められ、けやき大通りをはじめとする現在の都市の骨格が整備されました。

高度経済成長期には、工業地帯が拡大し港湾整備も進みましたが、その過程において水軒沖や紀の川河口部が埋め立てられ、木材工業団地、金属機械工業団地が形成されました。こうした社会基盤の整備は市の発展を支えたものの、景観上の影響も大きいことから開発と景観保全のせめぎ合いも生じることとなりました。

そして、自動車の普及とともに市街地の拡大が進行し、高層の建築物や沿道型の施設立地、さらに工場、流通、物販、住宅等の機能混在も進み、市街地の景観が大きく変容することとなりました。

③ その後、景気低迷や産業構造の変化等の波にさらされ、著しい中心市街地の衰退期を経験し、現在に至っている

経済情勢の変動に伴う景気の低迷、産業構造の変化により本市の製造業は衰退を余儀なくされました。近年では、中心市街地を支えてきた百貨店の閉店、大学の郊外移転などにより中心市街地の空洞化が進んでいます。

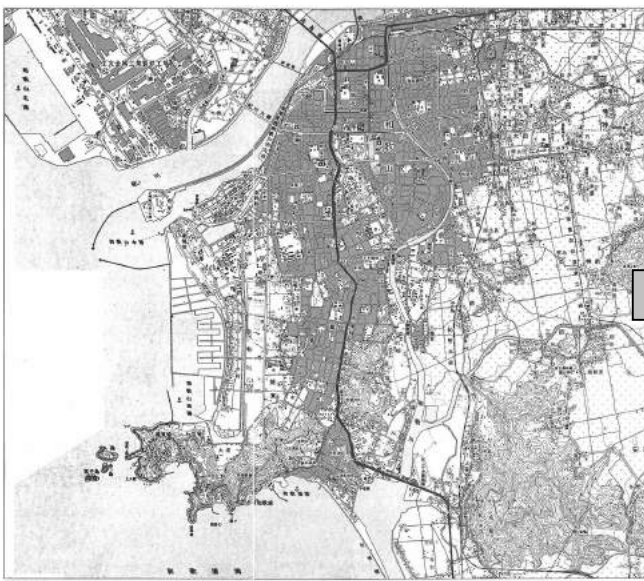
明治 19 年



昭和 22 年



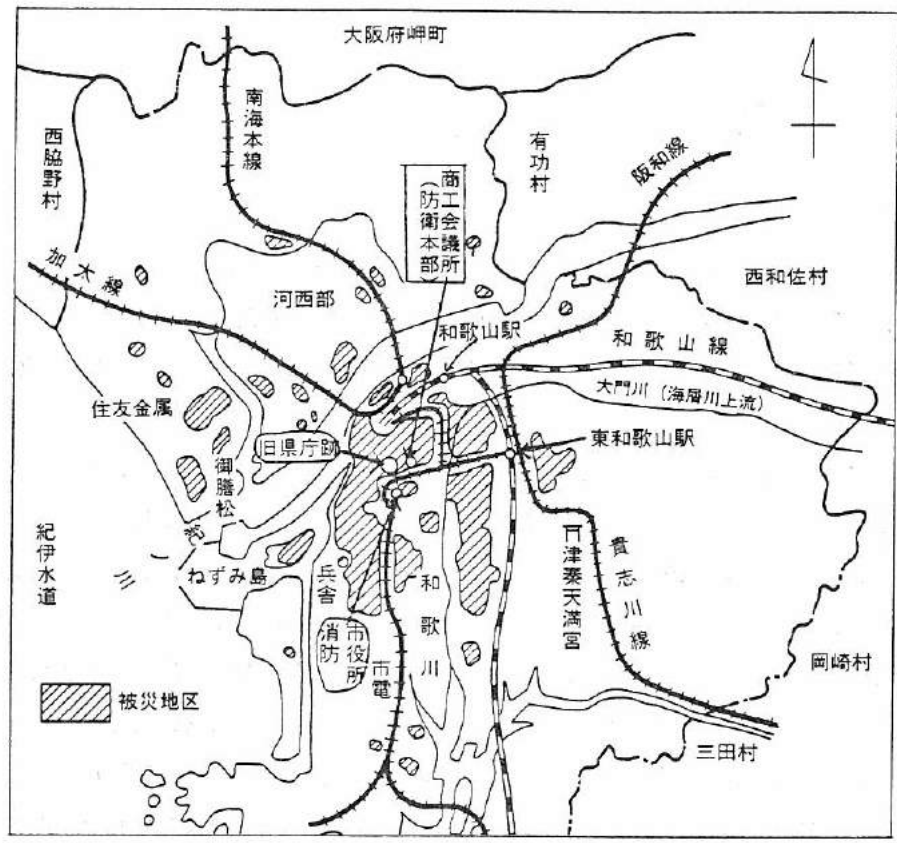
昭和 42 年



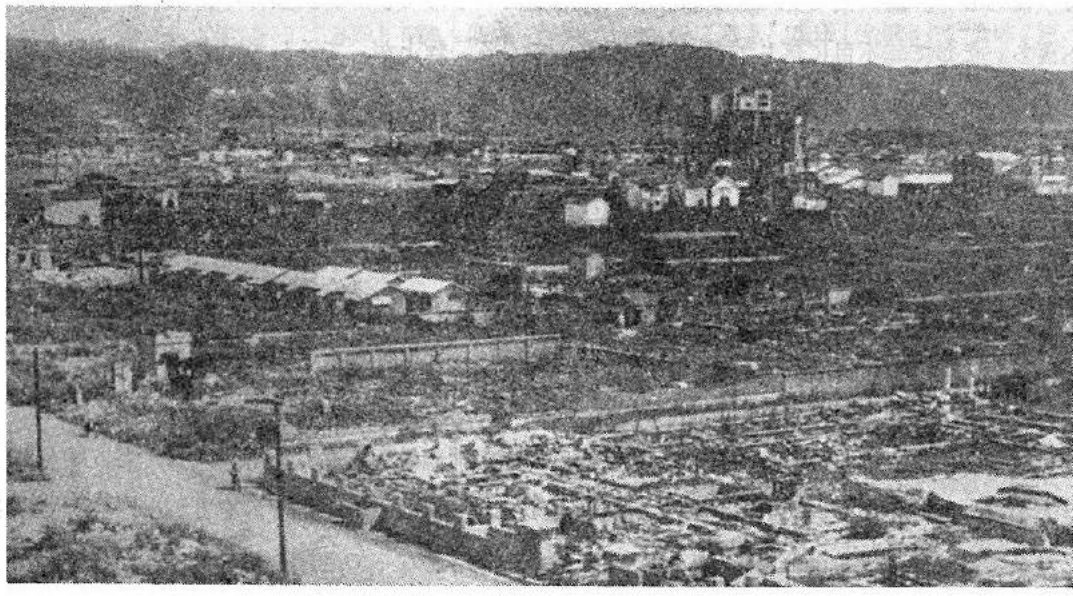
平成 14 年



図 13 和歌山市の市街地の変遷



写真は「火の海（和歌山大空襲）」より



商工会議所屋上から戦災直後の本町方面を望む

図 14 戦災の概要図と被害の光景

2. 和歌山市の景観の特性

景観のなり立ちを踏まえて、市の現在の景観をその特徴毎に10の類型に分類し、それぞれについて景観上の特性を整理しました。

また、「守る」「育む」「活かす」観点から、市民や団体、事業者などにより行われている取組みや資源等を、類型毎に整理しました。

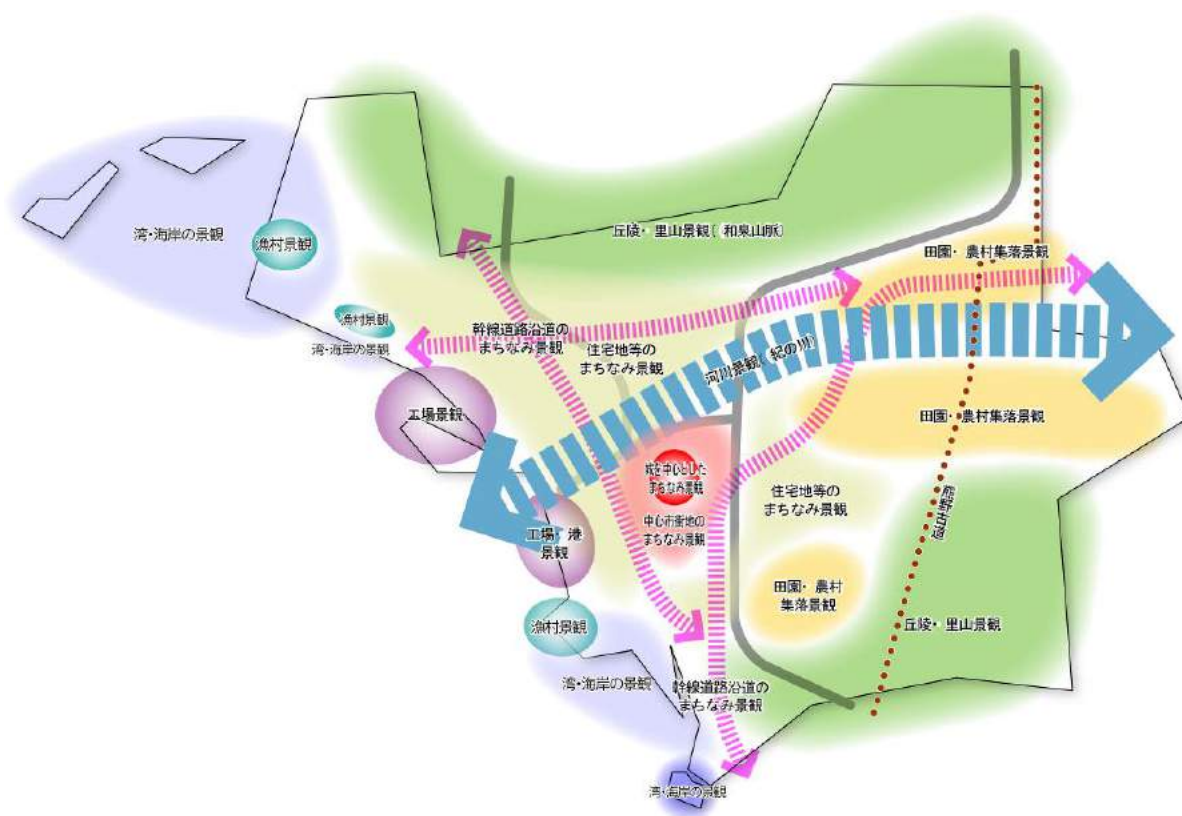


図 15 和歌山市の景観構造図

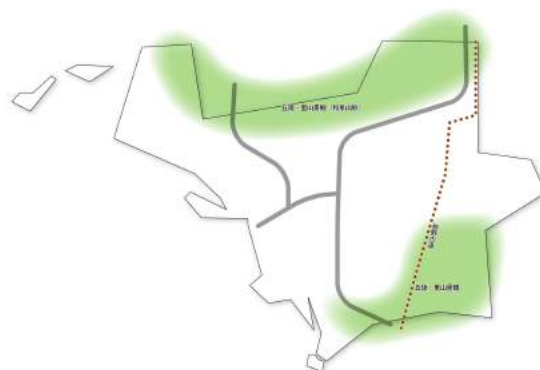
(1) 丘陵・里山景観

市の北部には和泉山脈の一部をなす標高 300m程度の丘陵が東西に広がり、平野部の背景として市街地から遠望することができます。

南東部には標高 200～300m程度の丘陵が分布し、谷筋が入り組んで細かな土地の起伏が見られ、里山、雑木林が点在しています。

大半が二次林（伐採や災害によって破壊された後、自然に又は人為的に再生した森林）ですが、竹林も多く見られます。

周辺の自然環境を活かした交流施設（四季の郷公園、紀伊風土記の丘、大池遊園など）は、市民の憩いの場となっています。



北部の山並み（山口付近）



南東部の山並み（小倉付近）



四季の郷公園



竹林（東山東付近）

【守り・育み・活かす景観】

丘陵・里山の自然と調和した人々の暮らしや活動が、息長く展開されています。

市の南東部にある山東盆地では、地元住民による「山東まちづくり会」が竹林の整備などの里山保全活動を行い、里山に触れ親しむきっかけとなるイベントを四季の郷公園周辺で開催しています。また、山東盆地の住民らによるワークショップも開催され、山東盆地の景観の再発見、再認識や利活用に向けた話し合いが進められています。

伊太祁曽神社や足守神社などでは地域の伝統行事が住民によって脈々と受け継がれています。また、和歌山電鐵貴志川線沿線を住民で盛り上げる動きなど、地域資源を活かし、住民の愛着・誇りを高める活動が幅広く行われています。



山東まちづくり会の活動



伊太祁曽神社の祭り

<主な景観資源> ※わかやまし景観ガイドより

(北部地域)

- ・岩神観音からの市街地への眺望
- ・木本八幡神社、平井城跡

(北東部地域)

- ・雄ノ山峠からの眺望

(東部地域)

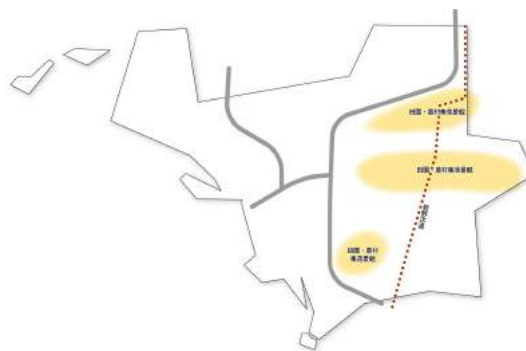
- ・紀伊風土記の丘

(南東部地域)

- ・四季の郷公園、大池遊園
- ・和歌山電鐵貴志川線の電車・駅・駅長など
- ・伊太祁曽神社、足守神社などの由緒ある神社と、その伝統的なお祭り
- ・平緒王子、奈久智王子などの王子跡
- ・永山、伊太祁曽神社周辺、黒岩・南畑、明王寺などの集落景観
- ・青石でつくられた民家の石垣
- ・里山の風景を活かした「紀州・山東 案山子めぐり」などのイベント

(2) 田園・農村集落景観

市の北東部、紀の川以北では、古くからため池の水利を活かした農業が営まれていました。段丘斜面に沿って、一部棚田を形成しながら水田や果樹園等が広がり、農村集落が点在した田園景観を形成しています。



市の南東部、紀の川以南では、比較的平坦な地形の中に水田が広がっています。

田園景観の様子が一望できる眺望点がいくつか存在し（例えば矢田峠から見た和佐付近の田園景観など）、のびやかな田園景観を堪能できます。

各所に点在する農村集落は、周辺の農地や地形、社寺などとあいまってまとまりある景観をつくっています。



農地が広がる田園風景（山口付近）



田園景観の眺望（和佐付近）



昔からの農村集落（小倉付近）



昔からの農村集落（永山付近）

【守り・育み・活かす景観】

農業や暮らしによって育まれた景観が広がっており、恵みや潤いを感じられるとともに、住民によって地域の維持管理活動や、年中行事などを後世に伝えていく活動が展開されています。

高積山のふもとにある高積神社の大祭は、戦後一時途絶えていた伝統を住民の手で復活させたというコミュニティのシンボルとなっている行事です。

その担い手の和佐集落では、住民が協力して地域管理活動（桜の木の下の下草刈など）を行っており、地域で協力する伝統が受け継がれています。また、地域の活性化に向けた活動も行われています。

また紀の川北岸を並行する南海道（なんかいどう）沿いや、東部の市境を南北に通る熊野古道沿いを中心に寺社や祠、王子社跡などの歴史資源が残されています。長屋門や蔵を持つ旧中筋家住宅（重要文化財）では、茶室で茶の湯体験が行われるなど、日本の文化を伝える場として活用されています。



高積神社秋祭



旧中筋家住宅での活動

<主な景観資源> ※わかやまし景観ガイドより

(北東部地域)

- ・楠本、神波などの田園風景、棚田の風景・市街地への眺望
- ・山口神社、力侍神社などの神社、川辺王子、中村王子、山口王子などの王子跡
- ・山口神社前の集落の風景
- ・上野、里、中筋日延、山口西などの街道沿いの住宅、山口御殿跡

(東部地域)

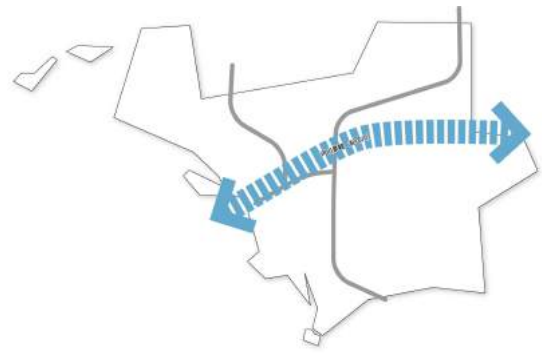
- ・矢田峠からの眺望
- ・川端王子、吐前王子、和佐王子などの王子跡、高積神社
- ・布施屋集落、禰宜集落などの街道沿いの集落
- ・和佐関戸集落、金谷集落、下三毛集落、上三毛集落などの農村集落
- ・和佐などの集落での共用空間を管理するコミュニティ活動

(南東部地域)

- ・竈山神社
- ・和田の田園景観

(3) 河川景観

市の中心部をゆったりと流れる紀の川は、川幅も広く水量も豊かで、市の骨格となる景観を形づくっています。沿川には緑地等も整備されており、市民の憩いの場としての人気も高い場所です。



紀の川から引き込んだ、あるいは山中のため池から流れ出す水が、地域を張り巡らされた用水路を流れ、身近な水辺の景観となっています。これらは農業用水を提供するとともに、生物の棲み家でもあり、農村景観の構成要素の一つでもあります。田植えから稲刈りまでの時期は水量が増え、力強い水の動きを見ることができます。

市街地内には大門川の支流である和歌川や市堀川（内川）が流れ、市街地内にあつて自然が感じられる空間となっています。橋梁上にたたずめる空間が整備されているほか、沿川の一部に遊歩道が整備されているところもあります。



ゆったりと流れる紀の川



市堀川（内川）と遊歩道



市街地内を流れる和歌川



橋梁上に整備された滞留空間

【守り・育み・活かす景観】

主に市の東部では、古くより条里水田として開発がなされ、現在もその地割りが残されており、宮井用水や六箇井用水などが水田を潤し、恵みをもたらしています。

かつて城下のお堀として水上輸送の動脈の役割を果たし茶屋が立ち並んでいた市堀川では、にぎわいを創出するイベントや、川沿いの景観を演出する夜間のイルミネーション、水辺に親しむクルーズなど、空間の魅力を再発見し、人が集う場所にする試みが行われています。

また、水辺と市民の関わりを考え直すきっかけづくりの場としてワークショップ等が開催されるほか、水辺の立地を活かしたリノベーション店舗が現れるなど、水辺を舞台にした市民活動が始まっています。



水辺のイルミネーション



水辺沿いの店舗

<主な景観資源> ※わかやまし景観ガイドより

(北部地域)

- ・紀の川大堰および紀の川
- ・紀の川橋梁（南海本線）
- ・千手川（せんずがわ）

(東部地域)

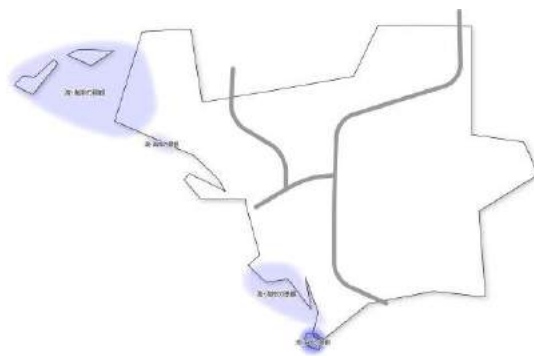
- ・宮井用水などの灌漑用水路
- ・栗栖の河川の分岐箇所

(中心部地域)

- ・市堀川（内川）の身近な水辺

(4) 湾・海岸の景観

市域の西部は、紀伊水道に面した湾、海岸となっており、広がりのある海とあいまって、市の骨格となる景観を創り出しています。



和歌の浦は、万葉の時代からの景勝地であり、古代の宮廷人が歌に詠んだ風光明媚な景観が今でもなお堪能でき、各所に歴史資源が点在しています。国の名勝指定もなされ、地域団体によるまちづくり活動も進められています。海岸の一部には岩場と砂浜が入り組んでいるところも残されており、貴重な景観資源となっています。「和歌の浦景観重点地区」が指定されており、眺望点からの眺望景観の保全に取り組んでいます。

友ヶ島、雑賀崎では、奇岩による島しょ景観が形成されており、広がる海原とあわせてダイナミックな海岸美を楽しむことができます。

加太、磯ノ浦、片男波、浜の宮などでは、自然の岩場や砂浜が各所に残り、海水浴やサーフィンなどの人気スポットとなっています。

紀の川河口部は、経済成長に合わせて埋め立てが進み、製鉄所、化学工場の進出や港湾整備によって県北部の臨海地域工業地帯が形成され、工場、倉庫等を中心とした景観が形成されています。その一方で、現在もわずかに残る川筋と水路が、古くからの河港の名残をとどめています。

また、市南部には埋立てによってマリーナシティが建設され、リゾートを想起させる景観が形成されています。



加太湾と友ヶ島



番所庭園から望む紀伊水道



高津子山の展望台から望む和歌の浦



浜の宮ビーチ



岩場と砂浜が織りなす海岸の景観



河港の名残を感じさせる元湊西河岸



雑賀崎の漁港



マリーナシティ

【守り・育み・活かす景観】

海や島しょが創り出す美しさを愛で、育んでいく活動が多く、多くの団体により展開されています。

和歌浦では、清掃活動に加え、観月会、竹燈夜や演奏会など、和歌の浦の風景の美しさや歴史文化を味わうさまざまなまちづくり活動が盛んに行われています。

友ヶ島の島内には、けもの道や大砲などがあり日常とはかけ離れた景観が残されており、訪れた人が発見し発信することにより、広く知られつつあります。

加太周辺からは紀淡海峡に開けた眺望や、夕日 100 選（和歌山県）にも選ばれた、島しょと海が創り出す美しい夕日を望むことができます。

水軒の浜においては、旧来の堤防が保存されているほか、かつての白砂青松の風景を取り戻すための植林活動が行われ、清掃活動などの取組みが市民の手によって行われています。



名勝和歌の浦のクリーンアップ活動



水軒の浜の植林活動

<主な景観資源> ※わかやまし景観ガイドより

(北西部地域)

- ・ 森林公園(四国山)、休暇村紀州加太周辺からの紀伊水道への眺望
- ・ 磯ノ浦海水浴場

(南部地域)

- ・ 妹背山、奠供山からの干潟の眺望、名草山への眺望
- ・ 高津子山からの眺望
- ・ 番所庭園、雑賀崎灯台から双子島方面の眺望
- ・ 紀州東照宮、和歌浦天満宮、玉津島神社、塩竈神社などの神社
- ・ 片男波、蓬莱岩など海岸の資源
- ・ 浜の宮ビーチ
- ・ 紀三井寺、紀三井寺公園、紀三井寺緑地
- ・ 和歌山マリーナシティのリゾートの空間

(臨海部地域)

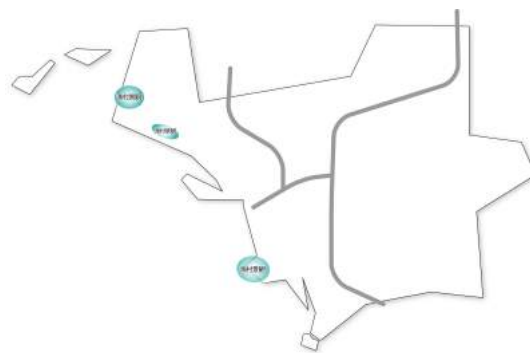
- ・ 養翠園、水軒浜、水軒川
- ・ 水軒の浜に松を植える会による植樹活動

(5) 漁村景観

加太、雑賀崎などでは、紀伊水道を漁場として古くから漁業が営まれており、地形を生かした天然の良港があり、その側には漁村の景観が見られ、今でも漁業が続けられています。

加太は、東方からの物資の終着地としても古くから栄え、淡嶋神社からつながる街道沿いを中心に家屋が密に立地した漁村景観を形成しています。

田野、雑賀崎は、半島部の入り組んだ湾の山肌に家屋がへばりつくように密集しており、湾一帯で独特の景観を創っています。



田野の漁村集落



雑賀崎の漁村集落



加太の漁村集落



家屋が密集した路地（加太）

【守り・育み・活かす景観】

漁業が営まれており、漁村の風景が継承されています。

雑賀崎では、漁港でとれたての新鮮な魚の船上販売を行っているほか、旧正月に大漁旗が掲げられるなど、生業が生活の景観を創り出しています。

加太においては、漁村の雰囲気や新鮮な魚介類などの資源を活かしたにぎわいづくりのため、また地域が抱える漁業や生活環境など幅広い課題解決のため、地元住民による活性化の団体がつくられ、若い世代が核となりながら、加太を良くしていく活動に取り組んでいます。

雑賀崎周辺では、県指定文化財の記念物（史跡）であるカゴバ台場遺跡周辺の維持管理や、浜辺の掃除、こどもたちが水辺について学び親しむ体験学習会、春と秋の「夕日を見る会」など、自然を保全しながらそれを愛でたり学んだりするなど、市民団体による継続した活動が行われています。



雑賀崎の大漁旗



夕日を見る会

<主な景観資源> ※わかやまし景観ガイドより

(北西部地域)

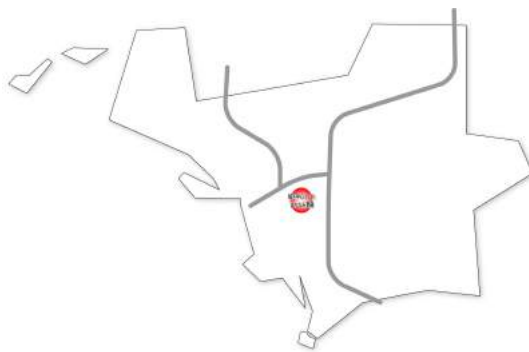
- ・淡島街道
- ・淡嶋神社、加太春日神社、常行寺、報恩講寺、阿字ヶ峰行者堂などの社寺
- ・麻殖生邸、前田邸などの歴史的な住宅
- ・加太漁港・大波止、西脇漁港などの漁港
- ・南海加太駅
- ・友ヶ島

(南部地域)

- ・雑賀崎集落、田野集落の漁村のまちなみ
- ・和歌浦漁港
- ・漁村での旧正月の伝統行事

(6) 城を中心としたまちなみ景観

和歌山市の市街地は、紀州 55 万 5 千石の城下町として繁栄した都市の構造が現在の都市の基盤となっています。戦災によって大半を焼失し、戦災復興土地区画整理事業によって市街地整備が進められ、また、風致地区においては建築物の規制誘導や緑地の保全が行われてきました。



和歌山城の位置する岡山のほか、鷲森別院等の寺社、かつてのお堀である市堀川(内川)など、城下町時代の痕跡は各所に点在しているものの、戦災の影響もあり、まちなみは大きく変容しました。しかし、城下町の町割がほぼ継承されており、点在する史跡や地名などにも当時の痕跡をうかがい知ることができます。

「和歌山城周辺景観重点地区」が指定され、高さや壁面位置の後退などのルールにより、地区の景観に配慮した建築物の立地も進んでいます。



桜の咲き誇る和歌山城



天守閣からの眺望



中央通りのまちなみ



堀端通りとお堀

【守り・育み・活かす景観】

和歌山城は、桜の名所として知られ、また夏の風物詩として「竹燈夜」が市民参加型で開催されています。周辺では紀州おどりぶんだら節」や「紀州よさこい祭り」が開催されるなど、和歌山城は市民の愛着が高い市のシンボルとなっています。



竹燈夜

平成 27 年 9 月には、和歌山城内の一角に「わかやま歴史館」が開設され、さらに、和歌山城からけやき大通りをはさんで北に位置する伏虎中学校跡地には、市民が集う場として「市民会館（仮称）市民文化交流センター」が建設される予定であり、市民広場なども整備され、新たなにぎわいの核となることが期待されています。

また扇の芝の復元が計画される他、武家屋敷長屋門が岡公園へ移築されるなど、文化・交流の拠点として充実させる整備事業が進められています。

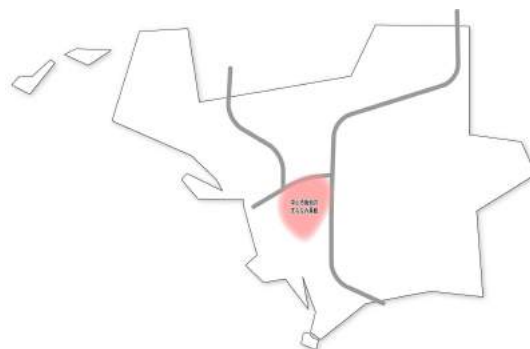
- <主な景観資源>** ※わかやまし景観ガイドより
（中心部地域）
- ・和歌山城
 - ・本願寺鷲森別院、刺田比古神社などの社寺
 - ・和歌山県庁
 - ・県立近代美術館
 - ・市堀川（内川）
 - ・「竹燈夜」などのイベント

(7) 中心市街地（大通り・商店街・駅前等）のまちなみ景観

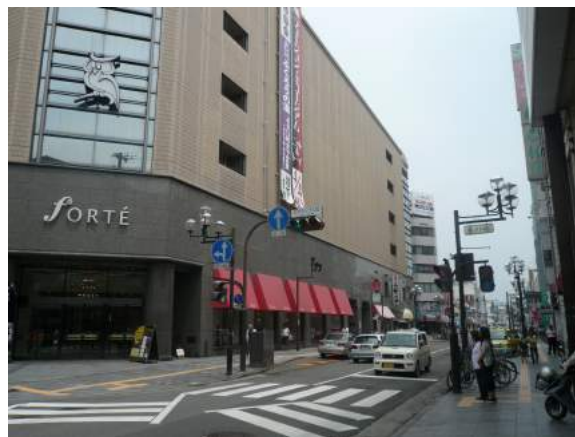
和歌山城周辺は、市役所や県庁など行政施設や市民利用の公共施設、業務施設が集積し、シビックゾーンを形成するとともに、けやき大通りといった主要幹線道路の整備もなされ、整った風格あるまちなみ景観を形成しています。

けやき大通りでは、市街地再開発事業のほか歩行者空間の確保とにぎわいづくりが進められています。

JR 和歌山駅と南海和歌山市駅は、ターミナル機能を備えるほか、百貨店等の商業集積もあり、来訪者の玄関口となっています。近年では、建築物の更新も進められ、新たな市街地景観を生み出しています。



けやき大通りのまちなみ



中心市街地の商業施設



ぶらくり丁



南海和歌山市駅からみたまちなみ

【守り・育み・活かす景観】

ぶらくり丁は、県内随一の繁華街、歓楽街としてにぎわいましたが、空き店舗等が目立つなどの問題が顕在化していました。しかし近年では、空き店舗をリノベーションした店舗ができるなど、新たなにぎわいづくりの動きや、市民が中心となった中心市街地一帯の回遊を促すイベントなど、市民や来訪者が集い楽しむ中心市街地の再生に向け活発な取組みが展開されています。

南海和歌山市駅では市街地再開発事業が行われ、周辺道路の歩道整備などとあわせ、市民図書館が移転するなど、新たな交流の拠点となるべく整備が進められています。

また、市駅前通り（市道和歌山市駅前線）では歩行者天国の社会実験が進められるなど、公共空間を活用した新たな取組みも芽生えています。



市駅“グリーングリーン”プロジェクト



リノベーションされた店舗

- <主な景観資源>** ※わかやまし景観ガイドより
 (中心部地域)
- ・ぶらくり丁
 - ・「城下町バル」などのイベント
 - ・御前家、加田家
 - ・嘉家作丁のまちなみ
 - ・滋野医院、浜病院、真砂浄水場、紀陽銀行本店、西本ビルなど近代を象徴する建築物

(8) 住宅地等のまちなみ景観

住宅地のまちなみ景観は、以下の4つに分けられます。



①古くからの敷地割が残る住宅地

古くからの敷地割を継承し、比較的ゆとりある住宅地として形成されているところがあります（今福、高松、松ヶ丘など）。

②戦災復興後のまちなかの住宅地

戦災復興の土地区画整理事業で主に整備された中心部は、職住一体の店舗兼住宅などが多く見られます。また、街区内に大規模な公園が整備された点が特徴的で、市民の憩いの場となっています。しかし、近年は中心市街地の衰退に伴って居住人口も大きく減少しています。

近年では、駅前等の至便な場所に高層マンションが建設されています。

③丘陵部を中心とした郊外住宅地

高度経済成長期に、人口の増加を受け入れる郊外型の住宅地が主に大阪都市圏にも近接する河北部で計画され、東洋台といった戸建て住宅団地や川永団地などの公営住宅団地が建設されました。その後、つつじが丘、ふじと台など斜面地を造成して戸建て住宅地が整備されており、緑豊かな整った住宅地のまちなみを形成しています。

④スプロール³住宅地

市街地の外縁部、田園地域や幹線道路沿いでスプロールが進行しています。

①古くからの敷地割が残る住宅地



松が印象的な住宅地のまちなみ（松ヶ丘付近）



古くからの住宅地のまちなみ（高松付近）

³ スプロール：人口の増加により個別開発が進行し、市街地の範囲が拡大する現象。

②戦災復興後のまちなかの住宅地



中心市街地内のまちなみ



JR 和歌山駅近くに立地するマンション

③丘陵部を中心とした郊外住宅地



スカイタウンつつじが丘のまちなみ



東洋台のまちなみ

④スプロール住宅地



スプロール戸建て住宅地のまちなみ



農地の中に現れる戸建て住宅地

【守り・育み・活かす景観】

身近な住宅地を住民の手で守り育てるための活動（清掃活動、植栽活動など）が各地で展開されています。

また、市内各地で「オープンガーデン」が開催され、丁寧に育てられた自慢の花や草木に彩られた庭が、訪れる人の目を楽しませています。

冬になると、個人宅を電飾で飾るイルミネーションが見られるなど、住宅地においてまちなみを育む取組みも広がっています。

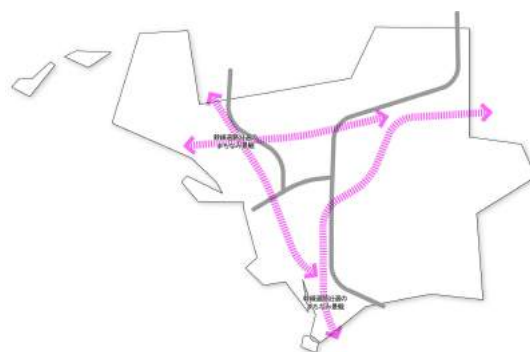


住宅地のイルミネーション

- <主な景観資源>** ※わかやまし景観ガイドより
- (北部地域)
 - ・ふじと台の計画的に開発された住宅地の家なみ
 - (北西部地域)
 - ・つつじが丘の住宅地の風景
 - ・加太自然の郷からの海への眺望

(9) 幹線道路沿道の景観

国道 24 号、26 号、42 号は主要な幹線道路となっており、多数の沿道施設（店舗等）が立地しています。特に市の北西部は、人口の増加に伴って多数の大規模商業施設や派手な色彩の建築物、屋外広告物が立地しています。



また、市の北東部の国道 24 号沿道でも沿道型の大規模店舗等が立地しています。

さらに、阪和自動車道和歌山北インターチェンジの開通により、利便性が向上した周辺では物流施設等の建設も進み、新たな拠点として成長しつつあります。

【守り・育み・活かす景観】

市内では、都市全体の活性化に向け、地域間の道路ネットワークの構築を目指し幹線道路の整備が進んでおり、沿道の景観形成がさらに重要になっています。

また、住民等による緑化・美化活動が展開されているところもあり、道路を魅力的な場所として育てていく取組みも進められています。



沿道の景観形成の活動



幹線道路沿道の景観（粉河加太線）



沿道型の商業施設（貴志付近）

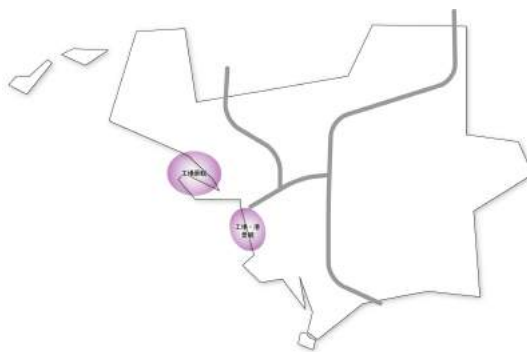
＜主な景観資源＞ ※わかやまし景観ガイドより
 ・各地域の骨格となっている幹線道路
 ・住民等による緑化・美化活動など

(10) 工場・港湾の景観

戦前は紡績工場といった伝統産業が盛んで、紀の川の右岸部や和歌川河畔に工場が集積しました。戦後は化学工場に転化し、紀の川改修とともに整備された和歌山本港に大規模な臨港工場が整備されました。

昭和30年代以降は埋立てによって鉄鉱専用の和歌山北港、木材専用の南港も完成し、高度経済成長期の市の発展を牽引しました。

一方で公害問題などの発生により、河西緩衝緑地の整備など環境改善の取組みも進められました。



【守り・育み・活かす景観】

臨海部を中心に工場が建ち並ぶダイナミックな景観が見られ、集積した化学工場は、夜になるとライトに照らされてその機能美が浮かび上がり、近年では幻想的な夜景（工場夜景）を楽しむ人の姿も見られるようになってきています。



和歌山南港・和歌山本港を望む



紀の川河口部からみた臨海部の工場



河西緩衝緑地

＜主な景観資源＞ ※わかやまし景観ガイドより
(臨海部地域)

- ・紀の川河口大橋から河口への眺め
- ・紀の川南側の堤防や和歌山南港からの、工場群や倉庫群への眺め
- ・河西緩衝緑地 ・和歌山共同火力のガスタンク